

介護現場のデジタル化 を効率よく進める方法

現場の負担を軽減し、ケアの質を高めるデジタルトランスフォーメーション

目次

1

介護現場のデジタル化の現状と課題

- アナログ作業の実態
- 業務非効率の問題点
- スタッフとデジタル技術の関係性

2

デジタル化がもたらす介護現場の変革

- 業務効率化による質の向上
 - スタッフの負担軽減
 - 記録業務のデジタル化

3

効果的なデジタル化推進のポイント

- 現場からのボトムアップ方式
 - 段階的な導入プロセス
 - スタッフの理解と協力

4

介護記録システムの導入と活用

- タブレット・スマホの活用
- リアルタイム情報共有
- 重要業務のデジタル化

5

介護ロボットとICT技術の活用事例

- 移動支援・見守りロボット
 - センサー技術の活用
 - 遠隔ケアの可能性

6

デジタル化と人間らしいケアの両立

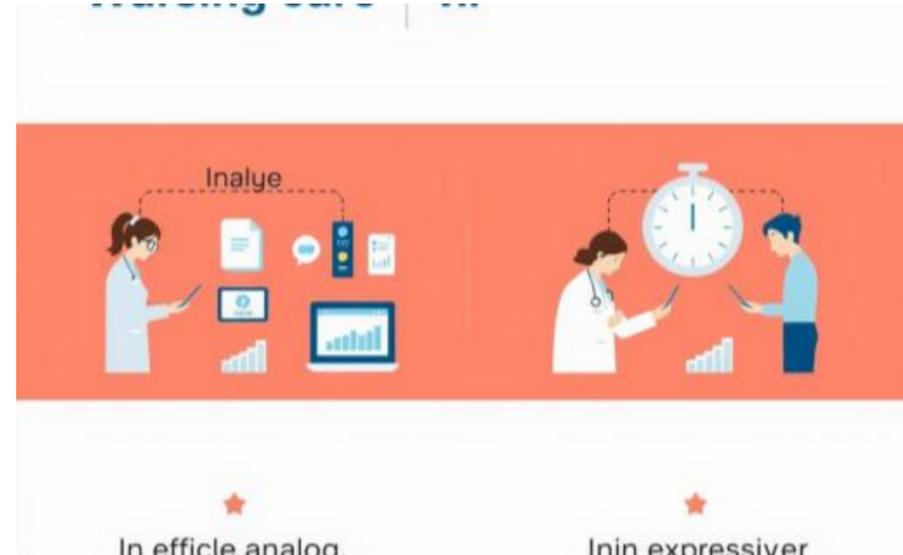
- テクノロジーと人の役割分担
- 高齢者に寄り添う体制づくり
 - コミュニケーション強化

介護現場のデジタル化の現状と課題



アナログ作業の実態

- 手書きの介護記録が主流
- 情報共有の遅延が発生
- 書類作成・管理に多大な時間
- データの検索・分析が困難
- 記録の標準化が進んでいない



デジタル化の遅れによる問題点

- 業務効率の低下と時間的損失
 - 人手不足の深刻化
- ヒューマンエラーのリスク増大
 - 情報伝達の不正確さ
- 働き手の高齢化による将来不安



現場スタッフとデジタル技術の関係

- デジタル機器への苦手意識
- 新システム導入への抵抗感
- 操作研修の時間確保が困難
- 世代間のITリテラシー格差
- 現場の声を反映した開発不足

デジタル化がもたらす介護現場の変革

質の向上

- ケア記録の正確性向上
- データに基づく個別ケア実現
- 利用者状態の変化を早期発見
 - 多職種連携の強化

負担軽減

- 記録作業の簡素化
- 二重入力の解消
- 身体的負担の軽減
- 働きやすい環境の実現

時間創出

- 利用者と向き合う時間の増加
- スタッフ間の情報共有の迅速化
 - 意思決定の迅速化
 - 残業時間の削減

効果的なデジタル化推進のポイント

STEP 01	STEP 02	STEP 03	STEP 04	STEP 05
現場主導	段階的導入	研修体制	成功体験	継続改善
<ul style="list-style-type: none">- 現場スタッフの声を最優先- 実際の業務フローに合わせる- 使いやすさを重視した選定- ボトムアップ方式の採用- 現場リーダーの巻き込み	<ul style="list-style-type: none">- 小規模な試験導入から開始- 成功事例を基に段階的に拡大- 無理のないスケジュール設計- 各段階での効果測定- 柔軟な計画修正	<ul style="list-style-type: none">- 世代別の研修プログラム- ハンズオン形式の実践的指導- マニュアルの視覚化・簡素化- 質問しやすい環境づくり- 継続的なフォローアップ	<ul style="list-style-type: none">- 短期間で効果を実感できる機能- 成功事例の共有と表彰- 具体的な数値で効果を可視化- スタッフの達成感を重視- 小さな成功の積み重ね	<ul style="list-style-type: none">- 定期的な利用状況の確認- スタッフからのフィードバック収集- システムの定期的なアップデート- 新機能の段階的な追加- 長期的な改善計画の策定

介護記録システムの導入と活用

タブレット・スマホ活用の記録方法

- ベッドサイドでの即時記録が可能
- 音声入力機能で手間を削減

リアルタイム情報共有による連携強化

- 多職種間での情報共有がスムーズに
- 申し送り漏れの防止に効果的

薬の管理など重要業務のデジタル化

- バーコード読取りによる誤薬防止
- 投薬スケジュール管理の自動化

データ活用による介護の質向上

- 利用者の変化を数値で把握
- エビデンスに基づくケアプラン作成

デジタル記録システムは介護現場の業務効率化と質の向上に不可欠なツールです

介護ロボットとICT技術の活用事例

移動支援・見守りロボットの導入例

- 移乗介助ロボットによる介護者の腰痛予防
- 自律移動型ロボットによる見守り巡回の自動化
- 歩行訓練ロボットによるリハビリ効果向上

センサー技術を活用した安全確保

- ベッドや部屋に設置したセンサーによる転倒予防
- バイタルデータの常時モニタリングと異常検知
- 睡眠の質を測定し健康管理に活用

遠隔ケアの実践

- オンライン診療との連携
- 遠隔での服薬指導
- 家族との情報共有

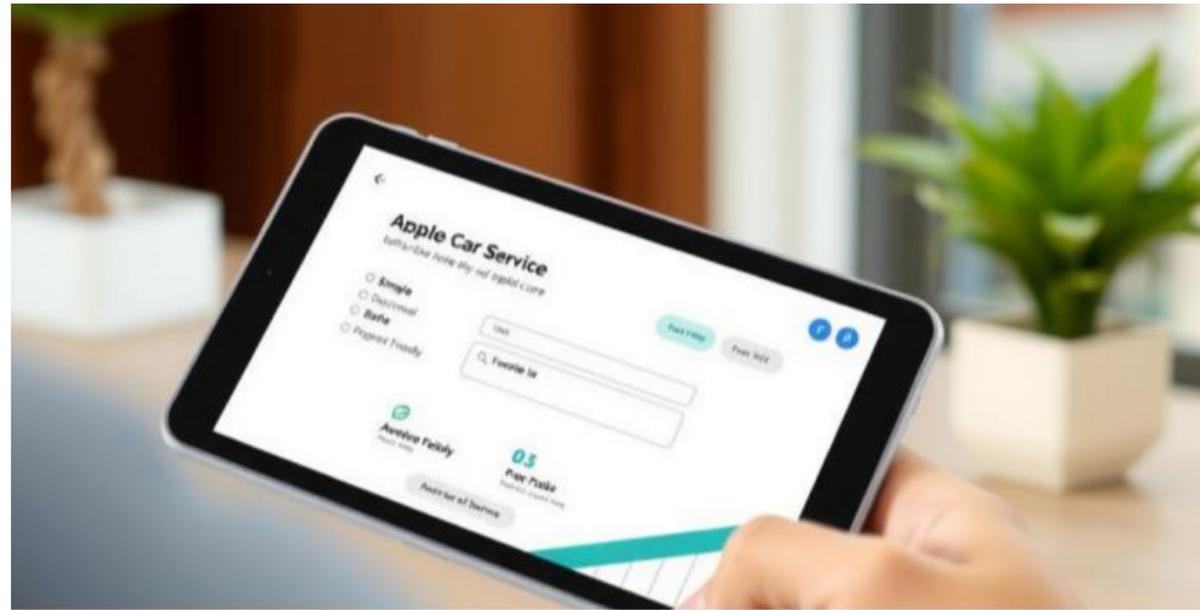
コミュニケーションロボット

- 高齢者の孤独感軽減
- 認知症ケアへの活用
- 日常会話による健康管理

業務支援システム

- シフト管理の自動化
- 介護記録の音声入力
- データ分析による質向上

行政手続きのオンライン化との連携



介護・要支援認定の申請 オンライン化

- デジタル庁主導の行政手続オンライン化と連動
- 24時間いつでも申請可能な環境整備
- 申請状況のリアルタイム確認機能
- 添付書類の電子化による手続き簡素化
- 高齢者でも使いやすいUI設計の重要性
- マイナンバーとの連携による本人確認簡略化



自治体との効率的な情報 連携

- 介護事業所と自治体間の情報共有プラットフォーム構築
- 利用者情報の一元管理によるケア品質向上
- 重複入力作業の削減による業務効率化
- 請求業務の自動化による事務負担軽減
- データ標準化による互換性確保
- セキュリティ対策と個人情報保護の徹底

人員配置の最適化とシフト管理

AIを活用したシフト自動作成

- 職員の希望と利用者ニーズを
- AIが最適バランスで調整

訪問ルート最適化

- GPSと交通情報を連携し
- 移動時間の大幅削減を実現

スタッフスキルの可視化と適材適所

- スタッフの得意分野を数値化
- 利用者との相性も考慮した配置

リアルタイム業務調整

- 急な欠勤や予定変更にも
- システムが即時に代替案提示

助成金・支援 制度

デジタル化推進のための各種支援制度の 活用方法

介護現場のデジタル化には様々な公的支援制度が用意されています。これらを効果的に活用することで、初期投資の負担を軽減しながら最新技術を導入できます。特に中小規模の介護事業所では、コスト面がデジタル化の障壁となりやすいため、これらの制度を理解し積極的に活用することが重要です。また、複数の支援制度を組み合わせることで、より効果的な導入計画を立てることができます。

IT補助金

- 介護ロボット導入支援
- ICT導入支援事業
- 地域医療介護総合確保基金
- 申請手続きの簡素化

自治体支援

- 最大450万円の補助
- 導入費用の2/3をカバー
- 定期的な公募に注意
- 申請書類の準備が重要

民間連携

- ベンダーとの協力体制
- リース活用でコスト分散
- 複数事業所での共同購入
- 実証事業への参加機会

人材育成

- デジタル人材の育成支援
- 無料研修プログラム活用
- オンライン学習コース
- 専門家派遣制度の利用



デジタル化と人間らしい ケアの両立

テクノロジーに任せるべき業務と人の手によるケアの線引き

デジタル化を進める上で最も重要なのは、効率化すべき業務と人の温もりが必要な業務を明確に区別することです。記録や情報共有などの事務作業はデジタル化し、直接的なケアや心のケアには人の時間を十分に確保する体制が理想的です。この線引きを現場スタッフと共に考えることが成功の鍵となります。

高齢者に寄り添う体制づくりとデジタル技術の融合

- デジタル技術は「人を支援するツール」という位置づけを明確にする
- 利用者一人ひとりの状態や好みをデータ化し、より個別化されたケアを実現
- 家族とのコミュニケーションツールとしてICTを活用し、信頼関係を強化
- スタッフの「気づき」をデジタルで記録・共有し、チームケアの質を向上

まとめと今後の展望

介護現場のデジタル化は、単なる業務効率化ではなく、人間らしいケアの質を高めるための手段です。

- 現場スタッフの声を起点としたボトムアップ型の導入プロセスを設計する
- 小さな成功体験を積み重ね、段階的にデジタル化を進める
- 公的支援制度を最大限に活用し、初期投資の負担を軽減する
- 介護ロボットやICTツールは「人の代替」ではなく「人の支援」と位置づける
- デジタル化で生まれた時間を利用者との関わりに還元する

